

富士市SDGsの課題と取り組み



2 飢餓を
ゼロに

目標 2



飢餓を終わらせる

富士市の課題

飢餓と聞くと「遠い国のこと」という印象を持つ方もいると思います。厚生労働省が公表している「国民生活基礎調査」によると、日本の子ども（18歳以下）の相対的貧困率（世帯所得をもとに国民一人ひとりの所得を計算して順番に並べ、真ん中の人の所得の半分に満たない人の割合）は2018年時点では13.5%となっています。これは日本の子どもの約7人に1人がそのような経済状況の家庭で暮らしていることを示しています。

また、世界の子どもの4人に1人は、栄養不良により発育不全の状態にあると言われています。日本でも飢えに苦しむ方は存在し、飢餓状態の経験者は20人に1人という調査結果があります。飢餓についての現状や、自分たちができる取り組みが知られていないことが課題と考えます。



こども食堂外観

富士市の取り組み

飢餓は貧困や食品ロスの問題と関わりがあります。本市では、子どもの貧困対策「子どもの未来サポートプラン」を策定し、「すべての子どもたちが平等に夢や希望を持てるまち」を目標に様々な事業を行っています。

また、食品ロス削減の取り組みとしては、冷蔵庫を点検して食材をおいしいうちに使い切ることや、3010運動（宴会や会食で、最初の30分間と最後の10分間はお料理を楽しむことで食べ残しを減らす運動）等について啓発を行っています。認定NPO法人「フードバンクふじのくに」は、市や社会福祉協議会と連携して、品質に問題がないのに消費できなかった食品を、地域や学校・職場で集めて、必要な方々へ渡すフードドライブの取り組みを行い、食品ロス問題の解決に取り組んでいます。



NPO法人 ゆめ・まち・ねっと 代表

渡部 達也

2004年ゆめ・まち・ねっと設立。どんな家庭の子どもでも参加できる参加費無料・保護者の申込不要の遊び場「冒険遊び場たごっこパーク」、「子どものたまり場おもしろ荘」、「みんなの家むすびめ」等を運営。生きづらさを抱えた子ども・若者に居場所を提供。「0円こども食堂」や生活困窮家庭、母子家庭へのフードパンtry等も開いている。

富士市SDGsポータルサイトでもっと詳しく掲載中



富士山とともに輝く未来を拓くまち
SDGs 未来都市 富士市

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS